

ケアシザトウムシおよびコアカザトウムシの
山口県東部における新産地

辻 雄介

「山口県の自然」第77号（2017年3月）別刷

山 口 県 立 山 口 博 物 館

ケアシザトウムシおよびコアカザトウムシの山口県東部における新産地

辻 雄 介¹⁾

はじめに

ケアシザトウムシは日本国内では北海道、本州、四国、九州に広く分布する体長1mm弱の微小なザトウムシで、コアカザトウムシは本州(関西地方南部以西)、四国、九州、琉球列島に分布する体長1.2mm程の小型ザトウムシである(鶴崎・鈴木 2015)。両者とも森林のリター層に生息しており、ケアシは低山地~ブナ帯に、コアカは主に標高500m以下の低山地で見られる(鶴崎 2015)。成体は1年中確認され、ほとんどメスしか見つかっておらず単為生殖種と考えられている。非常に小さいザトウムシなため野外での発見は困難であるが、ツルグレン装置を用いると容易に採集できるようである(鶴崎・鈴木 2015)。

タケ林およびスギ林の林床に堆積していたリターをバケツ1杯分もち帰り、自宅で篩い(シフティング)行い土壌動物の採集を行った。その結果、山口県における記録の少ないケアシザトウムシおよびコアカザトウムシが確認されたので、県東部における分布の記録として報告する。なお、標本は筆者が保管している。

記 録

・ケアシザトウムシ *Crosbycus dasyncnemus* (Crosby, 1911)

山口県柳井市神代, 1ex., 23. XI. 2016. 山口県岩国市甘木, 1ex. 23. XI. 2016.

日本では最小で、世界でも最小のザトウムシである。歩脚に毛が密集しているのが特徴。北米と日本に隔離的に分布している(鈴木 1972)。県内では周南市と周防大島町でしか記録されておらず(川野・鶴崎 2013)、柳井市・岩国市からは記録されていなかった。

・コアカザトウムシ *Proscotolemon sauteri* Roewer, 1916

山口県柳井市神代, 1ex. 23. XI. 2016.

ケアシザトウムシよりも一回り大きく、オレンジ色をしている。似ているタテヅメザトウムシ上科とは眼丘が高いこと、腹部背面の後ろの方に顆粒状突起が並ぶことで容易に区別できる。県内では周防大島町、周南市、山口市、美祿市、下関市で記録されているが(川野・鶴崎 2013)、柳井市からは記録されていなかった。

おわりに

以上の2種は珍しい種ではなく、県内には広く分布している可能性が高い。記録が少ないのは、両者とも非常に小型で、動作も緩慢であるため、フィールドでの発見が困難であるためと思われる。岩国市

1) TUJI, Yusuke 〒742-0417 山口県岩国市周東町下久原607-1-A102

の産地は筆者が通勤に利用している国道2号線に接している林縁のリターから採集されたのであり、ヒトの生活圏周辺の身近な場所にも生息しているようだ。民家の周辺などでも、湿度の保たれている森林内の落葉層をシフティングしたり、ツルグレン装置を用いたりすると容易に発見できるだろう。



図1. ケアシザトウムシ(岩国市産)



図2. コアカザトウムシ

謝 辞

末筆ではあるが、ザトウムシの採集にご協力頂いた島袋春香氏に心よりお礼申し上げます。

引用文献

川野敬介・鶴崎展巨(2013)山口県のザトウムシ類, ホシザキグリーン財団研究報告, 16:271-299.

鶴崎展巨, 2015. ザトウムシの生息環境. pp. 176-196, 宮下 直(編), クモの科学最前線—進化から環境まで—, 北隆館, 252 pp.

鶴崎展巨・鈴木正将(2015)ザトウムシ目, 青木 淳一(編), 日本産土壌動物—分類のための図解検索【第二版】, pp. 121-145, 東海大学出版部, 神奈川.

鈴木正将(1972)数種ザトウムシの不連続分布について. *Acta Arachnologica*, (24):1-8.